

## 2003 年度 委員会活動成果報告

(平成 16 年 5 月 20 日作成)

委員会名	収縮ひび割れ研究小委員会	主 査 名：三橋博三
所属本委員会 (所属運営委員会)	材料施工委員会(鉄筋コンクリート工事運営委員会)	委員長名：嵩 英雄
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ対策のための設計・施工法について調査・研究を行い、その成果を性能規定型及び仕様規定型双方を盛り込んだ指針としてまとめる。合わせてひび割れたコンクリートの補修方法についても調査・研究を行う。	
委員構成 (委員名(所属))	三橋博三(東北大学工学研究科都市・建築学専攻) 名和豊春(北海道大学工学研究科社会基盤工学専攻) 野口貴文(東京大学大学院工学研究科建築学専攻) 佐藤嘉昭(大分大学工学部福祉環境工学科) 湯浅 昇(日本大学生産工学部建築工学科) 橋田 浩(清水建設技術研究所) 今本啓一(東急建設技術研究所) 中村成春(宇都宮大学工学部建設学科) 五味秀明(電気化学工業) 池永博威(千葉工業大学工学部建築学科) 兼松 学(東京大学大学院工学研究科建築学専攻) 鈴木澄江(建材試験センター中央試験所) 荒井正直(日本建築総合試験所) 関田徹志(鹿島技術研究所) 黒岩秀介(大成建設技術研究所) 小柳光生(大林組技術研究所) 井上和政(竹中工務店技術研究所) 寺西浩治(名城大学) 谷村 充(太平洋セメント中央研究所) 三上藤美(東邦アーステック)	
設置 WG (WG 名:目的)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 性能規定 WG: 指針の大改定に向けて性能規定の立場から調査・研究を行った。</li> <li>・ 仕様規定 WG: 指針の大改定に向けて仕様規定の立場から調査・研究を行った。</li> </ul>	
2003 年度予算	200,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	小委員会の開催日及び各々の参加人数は以下の通りである。これに加えて各々の WG を 5 回開催している。 1 回目：2003 年 4 月 16 日(19 名), 2 回目：2003 年 9 月 29 日(17 名) 3 回目：2003 年 12 月 1 日(18 名), 4 回目：2004 年 3 月 9 日(19 名)
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) 2003 年 5 月に「鉄筋コンクリート造建築物の収縮ひび割れ - メカニズムと対策技術の現状 - 」を発売し、2003 年 5~7 月に全国 7 ヲ所で開催を行った。 さらに、収縮ひび割れ対策の性能設計と仕様設計の考え方について議論と調査・研究を重ね、資料の蓄積をはかった。 得られた成果は、国内外の研究の現状を踏まえたもので、学術的・技術的にも優れた内容となっており、社会的価値も高いものと言える。
	委員会 HP アドレス：なし
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 収縮ひび割れ研究小委員会では、設置当初に計画した「鉄筋コンクリート造のひび割れ指針(設計・施工)指針・同解説」の大改定に対して、2002 年 2 月の指針の小改定、2003 年 5 月の「技術の現状」の刊行と講習会が間に挟まる形となり、大改定の作業は必ずしも順調に進んでいるとは言い難い状況にある。その後も 2004 年度の大改定を年頭に作業を進めているが、2003 年 11 月以降の時点で指針の性能規定化を平易に分りやすく執筆する作業の困難さ、学会指針として維持すべき質などを総合的に検討した結果、当初予定した 2004 年度の刊行および講習会開催は難しいと判断した。
その他評価すべき事項	特になし